

絶滅のはなし 1

46 億年という地球の長い歴史のなかで、生命の歴史は 40 億年ともいわれています。この間に、数え切れない種類の生物が出現し、絶滅していきました。そしてこの期間には、そのとき生存していた非常に多くの生物種が、突然に、全くいなくなる（絶滅する）ということが少なくとも 5 回おこりました。このような事件を大絶滅（あるいは大量絶滅）と呼んでいます。

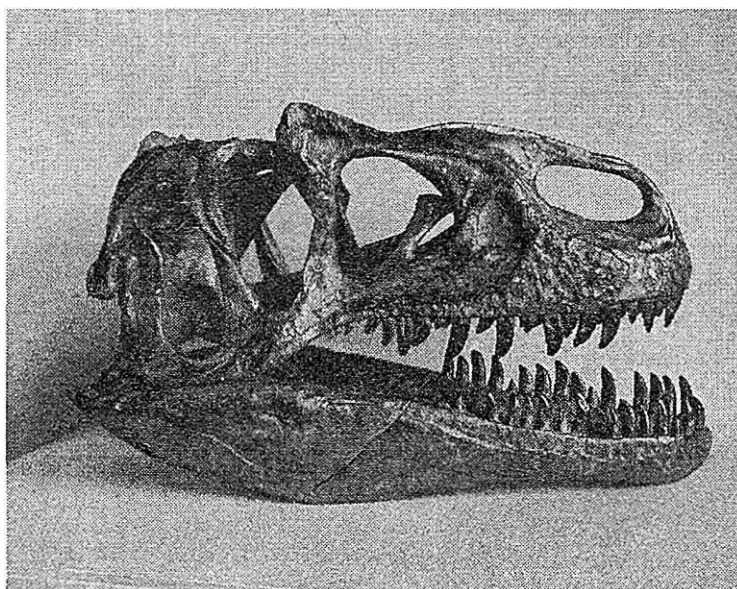
これら大絶滅のうち、2 つは比較的良好に知られています。1 つは約 2 億 5 5 0 0 万年前の古生代（魚の時代）最後に起きた絶滅。実はこの絶滅が生命の歴史の中で最大のものだといわれています。そしてもう 1 つは約 6 5 0 0 万年前におきた中生代（恐竜の時代）最後の絶滅で、恐竜を死滅させたことから、長年私たちの興味を引いてきました。

では、なぜこのような大絶滅が起こったのでしょうか？
いろいろな説があります。1 気候の寒冷化、2 病気の流行、3 天敵の繁殖 などなど..... このなかでも、大絶滅を起こす一番の要因は「気候の寒冷化」であると考えられています。地球の気候が数百万年間（といっても、地球の長い歴史と比較すれば、これはとても短い時間なのですが）寒冷化することによって、海は冷たく、陸上も寒く乾燥し、厳しい環境となりました。この間、様々な種類の生物が死に絶えました。もちろん大絶滅は気候の寒冷化の他にも、さまざまな要因が重なり合っておこります。たとえば中生代最後の絶滅では、気候が寒冷化して多くの生物が死滅しようとしていたそのとき、追い打ちをかけるように巨大な隕石が落下して地球上をさらに過酷な環境におい

やり、大絶滅を決定的なものにしたと考えられています。

さて、何度も繰り返された大絶滅は多くの生物を死滅させた事件であるため、暗いイメージがつきまといます。その一方で私たちは、この大絶滅という事件に心を引かれます。それは大絶滅が新しい多様な生物が繁栄する「まえぶれ」でもあることを知っているからでしょう。来月もひきつづき絶滅のことをお話しします。

(田中 豊)



アロサウルスの頭骨（レプリカ）

アロサウルスは約 1 億 4000 万年前に存在した恐竜です。恐竜類も 6500 万年前の大絶滅で地球から姿を消しました。



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成12年3月1日